

マレーシア留学・現地調査案内 特集にあたって*

篠崎香織

ほとんど全てのディシプリンにおいて、事例研究を踏まえた理論構築が求められている。事例研究をまとめるには、研究対象地域に一定期間滞在して現地調査を行うことが、多くの場合に必要となる。

マレーシアでもすでに多くの研究者が調査を行ってきた。その中には、様々な機関に点在する情報を集め、限られた情報を頼りに手探りで手続きを行い、全て終わってみれば「こんなに簡単なことだったのか」と思えることがその過程ではわからず、予想以上の労力と時間を費やしてしまった経験を持つ人も少なくないであろう。そうした経験を蓄積し、それを多くの人が参照できる形で提示しておけば、これから調査に入る研究者の負担をいくらか軽くすることが可能なはずである。

そこで、この 1、2 年のうちにマレーシアに留学した JAMS 会員や、現地調査を行った JAMS 会員にお願いして、マレーシア留学および現地調査に関する情報を集めてみた。今号(第 32 号)は、クアラルンプール市で文献資料を収集する際に有用と思われる情報と、マレーシア留学に関する情報を取り上げる。坪井祐司・鈴木絢女・篠崎香織「クアラルンプール市内およびその周辺での資料収集案内」は、クアラルンプール市およびその周辺の図書館と書店を案内する。篠崎香織「調査許可証とプロフェショナル・パスの取得方法」は、マレーシアで正式に調査を行う際に必要となる調査許可証と、調査を目的とした長期滞在を許可するプロフェショナル・パスの申請手順を案内する。留学事情に関して、マラヤ大学について東條哲郎が、マレーシア国民大学について上田達が、マレーシア理科大学について久志本裕子が、それぞれ案内する。さらに次号(第 33 号)で、クアラルンプール市以外の地域で調査を行う際の諸手続きと、各地の文献資料の所蔵状況などを取り上げる予定である。

今号のほとんど全ての執筆者が書いているように、各機関での手続き方法には突如変更が生じることも多いため、今回の案内を参考とし、随時最新の情報を確認していただきたい。また、いくら周到に備えても、問題が生じる時は生じてしまう。研究対象地域の人びととの間で問題を解決していく過程そのものが研究対象地域を知ることにつながる側面もあるため、「問題」を「経験」と読み替えて前向きに対応していくのもいいかもしれない。

JAMS には、インドネシアやシンガポール、フィリピン、タイなどを研究対象地域とする会員も多い。これらの地域に関しても、関連情報が寄せられるよう願う。

* この特集は、篠崎香織会員の提案により、企画段階から編集作業まですべて篠崎会員が担当したものです。会員のみなさんからのこのような企画を歓迎します。(編集部)

